

## 職員による自己評価

## A環境面

人員配置については不十分と感じる時もある。バリアフリー化はされている。満足のいくスペースは無いが工夫しながら環境設定できている。

## B児童への支援内容

多職種（児童指導員、看護師、セラピスト等）で連携しそれぞれの役割の中で支援出来ている。個別の関りを重視、言葉、表情、体の動きなど自発的な表現、表出を促している。

## C関係機関との連携

コロナ禍の中で学校への訪問やカンファレンス等、不十分であった。他事業所とも同様である。医療機関との連携は併設のクリニックを通して出来ている。

## D保護者への説明責任・信頼関係

支援の内容や利用中の様子を送迎時、面談時等に細かく説明する事が出来ている。保護者会などが開催出来ず、交流の場が少ない。

## E非常対応

年に2回避難訓練を実施したが夜間、AMの想定であった為、放課後想定も必要である。又、災害用の物品の預かりや緊急時（大雨、雪）のメール配信については出来ている。

## 保護者による評価

## A環境面

活動スペースや職員配置、バリアフリー化等の評価は高いが、1割の方からはどちらともいえないとの意見があった。

## B児童への支援内容

児童への支援については高い評価だったが放課後児童クラブとの交流や障害がない子どもと活動する機会についてはコロナの影響で出来ていない、しばらく交流はして欲しくないとの意見があった。

## C事業所からの情報発信

活動や行事については、ホームページ、「放デイだより」、ブログでの発信が出来ているとの評価であった。

## D非常対応

緊急時の体制や災害時の備え、避難訓練の実施については概ね高い評価であった。防犯マニュアルの有無や施設の入出口から容易に誰でも入ってしまうので不安があるとの意見があった。

## Eその他

物品の入れ間違いや忘れ物があったので不安を感じるとの意見があった。

## 事業所内での分析

## 【共通点】

・支援について、多職種で連携しながら出来る事、良い部分を伸ばしていきながら楽しく通える環境作りを行っており、保護者からも色々な活動を行いながら楽しく通所出来ているとの声を頂いている。

## 【相違点】

- ・事業所として火事や災害について考える事は多かったが、保護者からは防犯について不安の声があった。
- ・事業所からの広報誌やブログ等を楽しみにしてくれている方が多い。

## 分析・検討してみても…

### 事業所の強み

- ・多職種が連携し、様々な方向からアプローチを行う事によって身体機能、認知機能に働きかける事ができる。
- ・クリニックが併設されており、看護師3名を配置する事で医療的ケアがある子どもが安心して通所できる。

### 事業所の改善点

- ・保護者が子ども達の活動の様子や過ごしている環境を見る機会が少ない事。
- ・施設の出入り口から容易に誰でも入ってしまう防犯に関する事。
- ・利用者の物品の入れ間違いの再発防止に関する事。

### 事業所の改善への取り組み

- ・活動スペースの確保や適正な職員配置については、感染防止対策を徹底しながら保護者会の開催や参観日を設定し、実際の様子を見てもらう機会を作る。
- ・施設の防犯対策については、ソフト、ハード面の両方において施設全体で取り組んでいく。
- ・物品の入れ間違いについては、事業所内で振り返りを行い再発防止に努める。又、職員同士の声かけ等のコミュニケーションの強化を図り、物品の入れ間違いや忘れ物ゼロを目指す。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

支援やケアについては、事業所側が提供したい事、すべき事を保護者の希望や意見を聞きながら実施出来た。今後も利用者、利用者家族との対話を増やし、細かいニーズを汲み取り支援に繋げていきたいと思う。

コロナ禍の中で保護者が支援を見る機会が少ない中で、事業所からの広報誌やブログの発信を楽しみにしている方が多くいる事が分かったので、力を入れていきたいと思った。

事業所名 \_\_\_\_\_ 放課後等デイサービスこまち  
担当者 \_\_\_\_\_ 井上 淳